

平成20年度実施協働事業の振り返り(気づきの共有から改善へ)

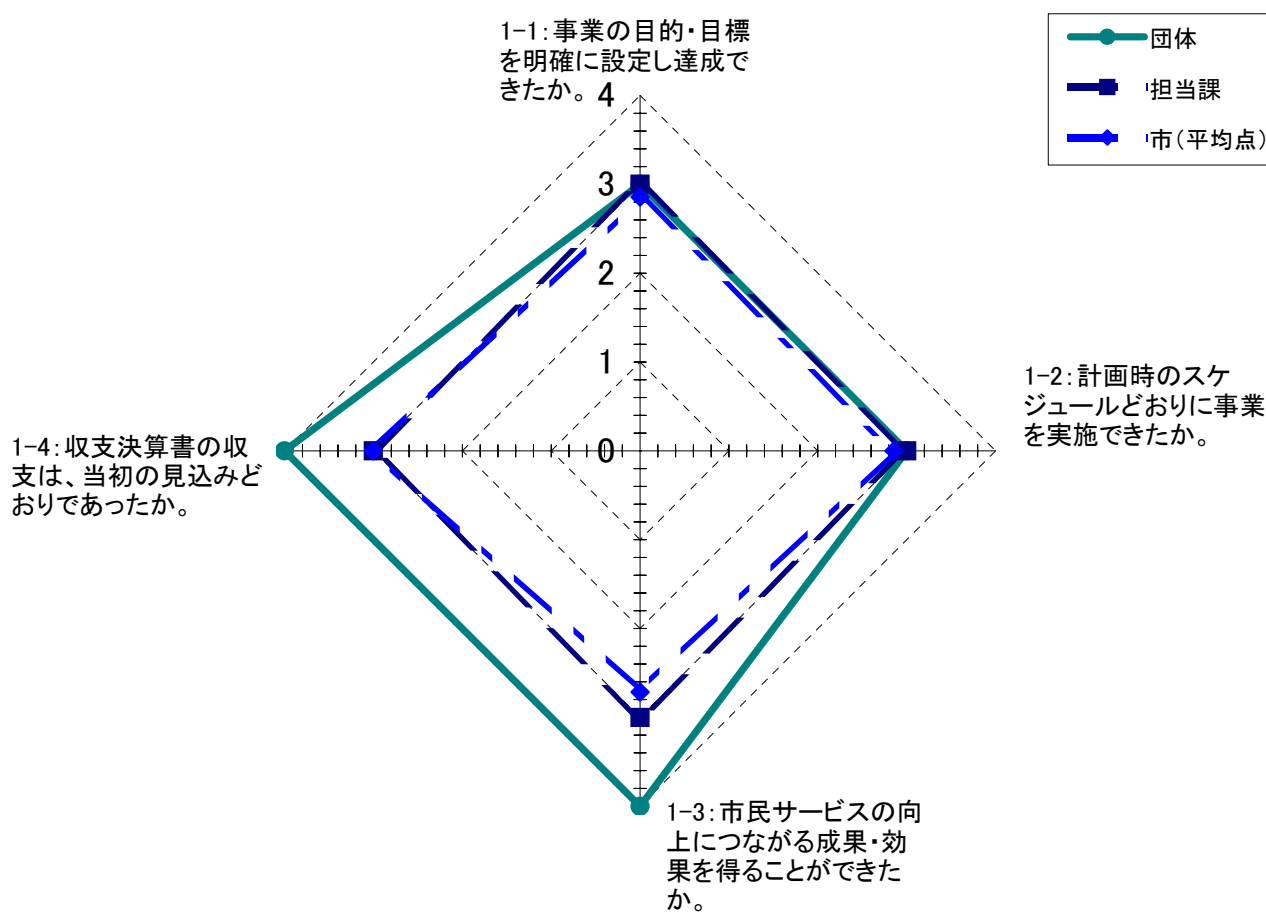
事業名 防犯対策システム運営事業
 団体名 (特非)地域魅力
 担当課 市民自治推進課

【採点基準】

できなかった	0
あまりできなかった	1
ほぼできた	2
できた	3
非常によくできた	4

1、事業結果の振り返り(効果・成果)

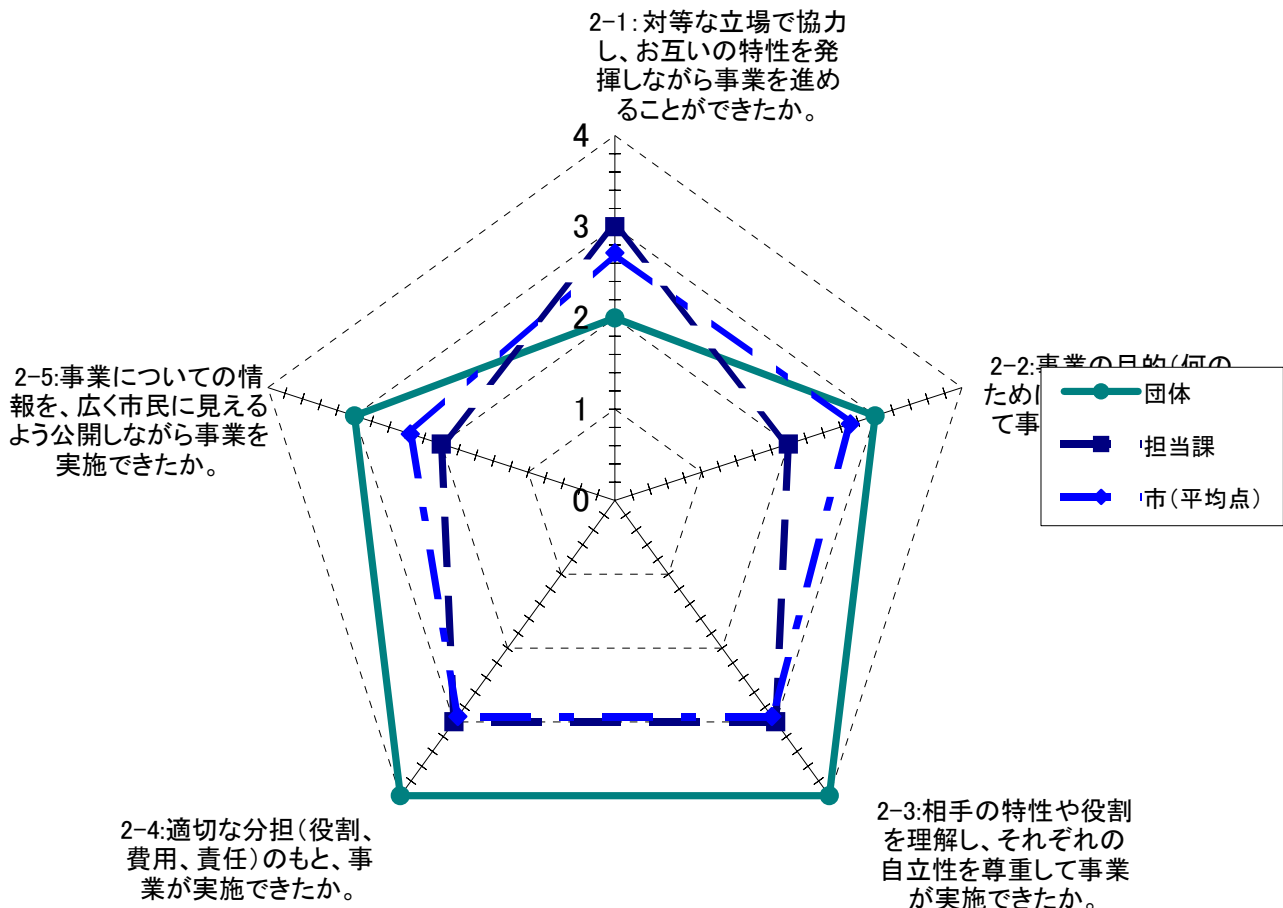
設問	内容	団体	担当課	市(平均点)
1-1	事業の目的を明確に設定できていたか。	3	3	2.86
1-2	計画時のスケジュールどおりに事業を実施できたか。	3	3	2.86
1-3	市民サービスの向上につながる成果・効果を得ることができたか。	4	3	2.71
1-4	収支決算書の収支は、当初の見込みどおりであったか。	4	3	3.00



1 事業結果の振り返りからは、特徴的な部分として、「1-1 事業の目的・目標を明確に設定し達成できたか。」及び「1-2 計画時のスケジュールどおりに事業を実施できたか。」について、団体・担当課・市ともに“できた”としており、事業の高い達成度がうかがえます。その他の項目については、団体と担当課とは、“できた”と“非常によくできた”とに分かれますが、市を含めたグラフの傾向は相似していることから、本事業については、当初の収支の見込みのとおり、市民サービスの向上につながる成果・効果を得ることができたと考えられます。

2、協働の原則からの振り返り

設問	内容	団体	担当課	市(平均点)
2-1	対等な立場で協力し、お互いの特性を發揮しながら事業を進めることができたか。	2	3	2.71
2-2	事業の目的(何のために)と内容を共有して事業を進めることができたか。	3	2	2.71
2-3	相手の特性や役割を理解し、それぞれの自立性を尊重して事業が実施できたか。	4	3	2.93
2-4	適切な分担(役割、費用、責任)のもと、事業が実施できたか。	4	3	2.93
2-5	事業についての情報を、広く市民に見えるよう公開しながら事業を実施できたか。	3	2	2.36



2 協働事業の原則からの振り返りからは、特徴的な部分として、「2-1 対等な立場で協力し、お互いの特性を發揮しながら事業を進めることができたか。」について、団体は“ほぼできた”としているのに対し、担当課・市は“できた”としています。反対に、その他の項目、例えば「2-3 相手の特性や役割を理解し、それぞれの自立性を尊重して事業が実施できたか。」「2-4 適切な分担のもと、事業ができたか。」について、団体は担当課・市よりも高い点としています。担当課と団体との間に、若干の温度差が感じられますが、反省点・対応策として、対面での打ち合わせを積極的に行い、意思疎通を図るとの課題の共有ができていることから、21年度については、改善が図られると考えます。

3 講評

事業は全体として有効に機能していて、防犯メールの配信等について、つつがなく行われています。本事業は、警察からの情報が元になっているので、団体・市・警察の3者の協働事業という認識のもと、警察からの情報に対して、積極的にアプローチすべきであると考えます。さらに、犯罪抑止という目的から、警察のほか、学校からの不審者情報なども提供してほしいと考えます。今後は、協働事業として実施することによるメリットはどこにあるのか、NPO・行政が整理していく必要があると考えます。

※この講評は、協働事業を実施した団体と担当課及び審査選定を行った市の協働事業推進会議と審査選定にご意見を頂いた市の審議会である藤沢市市民活動推進委員会からの意見について、代表的なものを要約してまとめたものです。

平成20年度実施協働事業の振り返り(気づきの共有から改善へ)

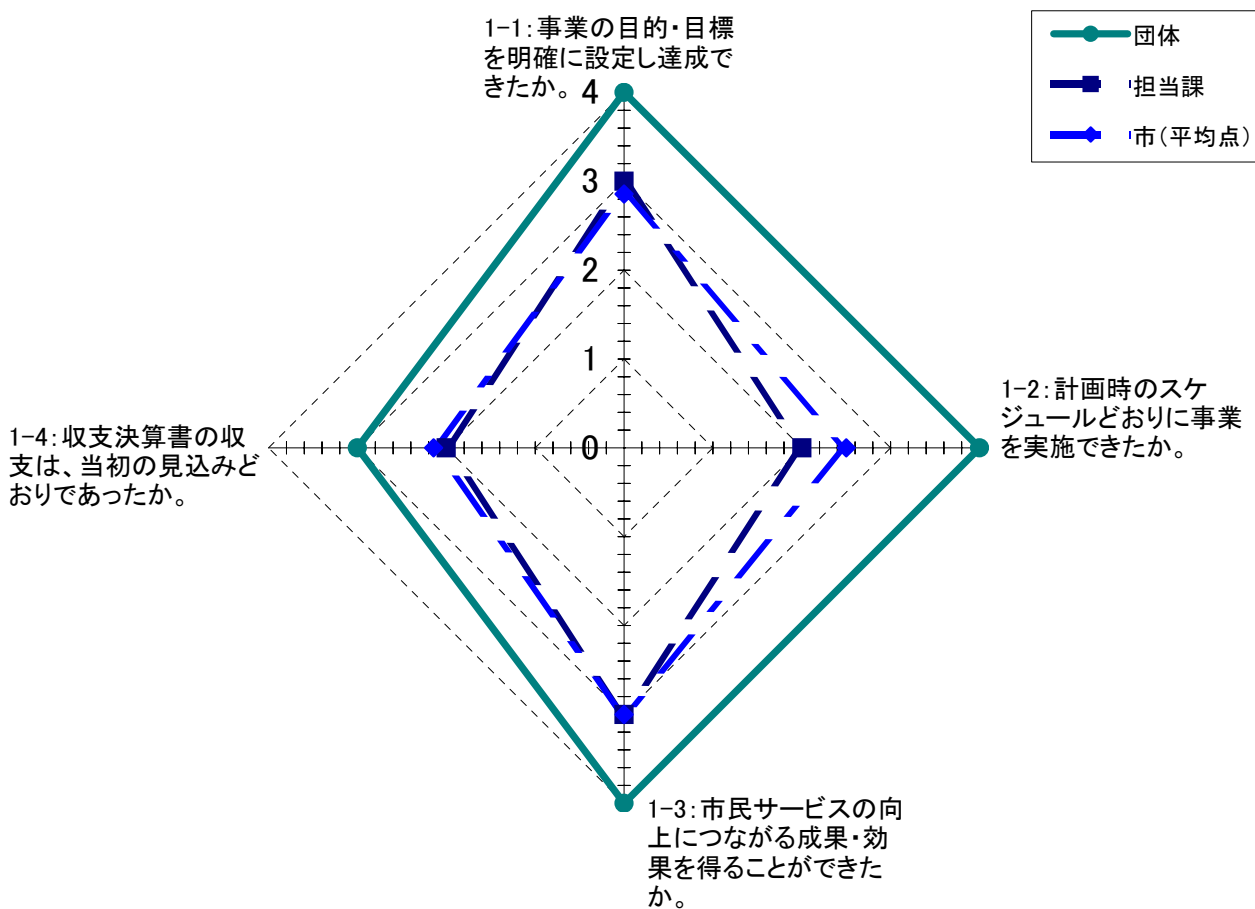
【採点基準】

事業名 地域ポータルサイト(えのしま・ふじさわポータルサイト)運営事業
 団体名 (特非)湘南ふじさわシニアネット
 担当課 IT推進課

できなかった	0
あまりできなかった	1
ほぼできた	2
できた	3
非常によくできた	4

1、事業結果の振り返り(効果・成果)

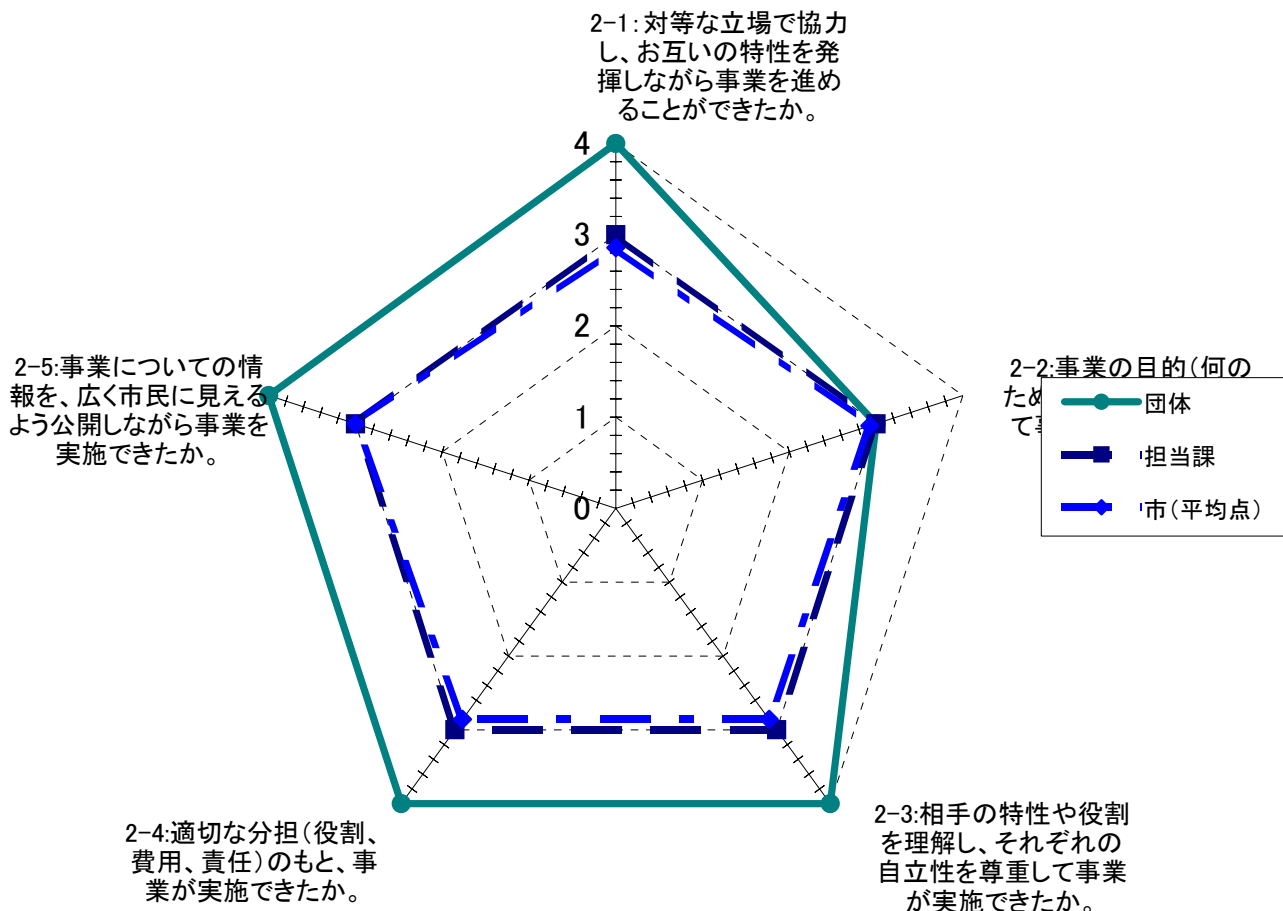
設問	内容	団体	担当課	市(平均点)
1-1	事業の目的を明確に設定できていたか。	4	3	2.86
1-2	計画時のスケジュールどおりに事業を実施できたか。	4	2	2.50
1-3	市民サービスの向上につながる成果・効果を得ることができたか。	4	3	3.00
1-4	収支決算書の収支は、当初の見込みどおりであったか。	3	2	2.14



1 事業結果の振り返り(効果・成果)からは、特徴的な部分として、「1-1 事業の目的・目標を明確に設定し達成できたか。」「1-2 計画時のスケジュールどおりに事業を実施できたか。」及び「1-3 市民サービスの向上につながる成果・効果を得ることができたか。」について、団体は“非常によくできた”としています。グラフの傾向として、団体と担当課・市に点差があるものの、Joomlaを使用したCMS化や新ポータルサイトの開発により、生活に役立つ利便性の高い地域情報が提供できるようになり、市民サービスの向上が図られたと考えます。平成20年度は、広告・協賛収入が予算を大幅に下回ったとのことで、今後の課題としては、自主財源の確保が挙げられます。

2、協働の原則からの振り返り

設問	内容	団体	担当課	市(平均点)
2-1	対等な立場で協力し、お互いの特性を發揮しながら事業を進めることができたか。	4	3	2.86
2-2	事業の目的(何のために)と内容を共有して事業を進めることができたか。	3	3	2.93
2-3	相手の特性や役割を理解し、それぞれの自立性を尊重して事業が実施できたか。	4	3	2.86
2-4	適切な分担(役割、費用、責任)のもと、事業が実施できたか。	4	3	2.86
2-5	事業についての情報を、広く市民に見えるよう公開しながら事業を実施できたか。	4	3	3.00



2 協働事業の原則からの振り返りからは、特徴的な部分として、「2-2 事業の目的と内容を共有して事業を進めることができたか。」以外は、団体は全て「非常によくできた」としています。担当課・市の点数は少し下回るものの、ほぼ均等で同じような傾向となっています。「人の温もりが感じられ便利で新鮮な藤沢地域の魅力あふれるサイトづくり」を目指して、団体と担当課が手間と時間をかけて、新ポータルサイト「えのぼ」の開発に取り組んだ結果、協働の原則においてバランスの取れた結果につながったと思います。今後は、事業の目的と内容の共有をさらに深めながら、運営にあたっていただきたいと思います。

3 講評

非常に良いレベルで事業が実施され、一定の成果を上げています。ページビューも伸びていますが、40万都市のポータルサイトとして考えた場合、さらに一段上のページビューを期待したくなるのも事実です。今後は、ネット上での仕掛けだけではなく、リアルな場面でのプロモーション作業も必要になってくるのではないのでしょうか。また、自主運営に向けての取り組みについては、本事業が市提案事業であることから、市側も積極的な解決策を模索すべきだと思います。自主運営をするには大変な時代だと思いますが、企業がメリットを見いだせるサイトとしても、利用・発展させていただければありがたいと思います。

※この講評は、協働事業を実施した団体と担当課及び審査選定を行った市の協働事業推進会議と審査選定にご意見を頂いた市の審議会である藤沢市市民活動推進委員会からの意見について、代表的なものを要約してまとめたものです。

平成20年度実施協働事業の振り返り(気づきの共有から改善へ)

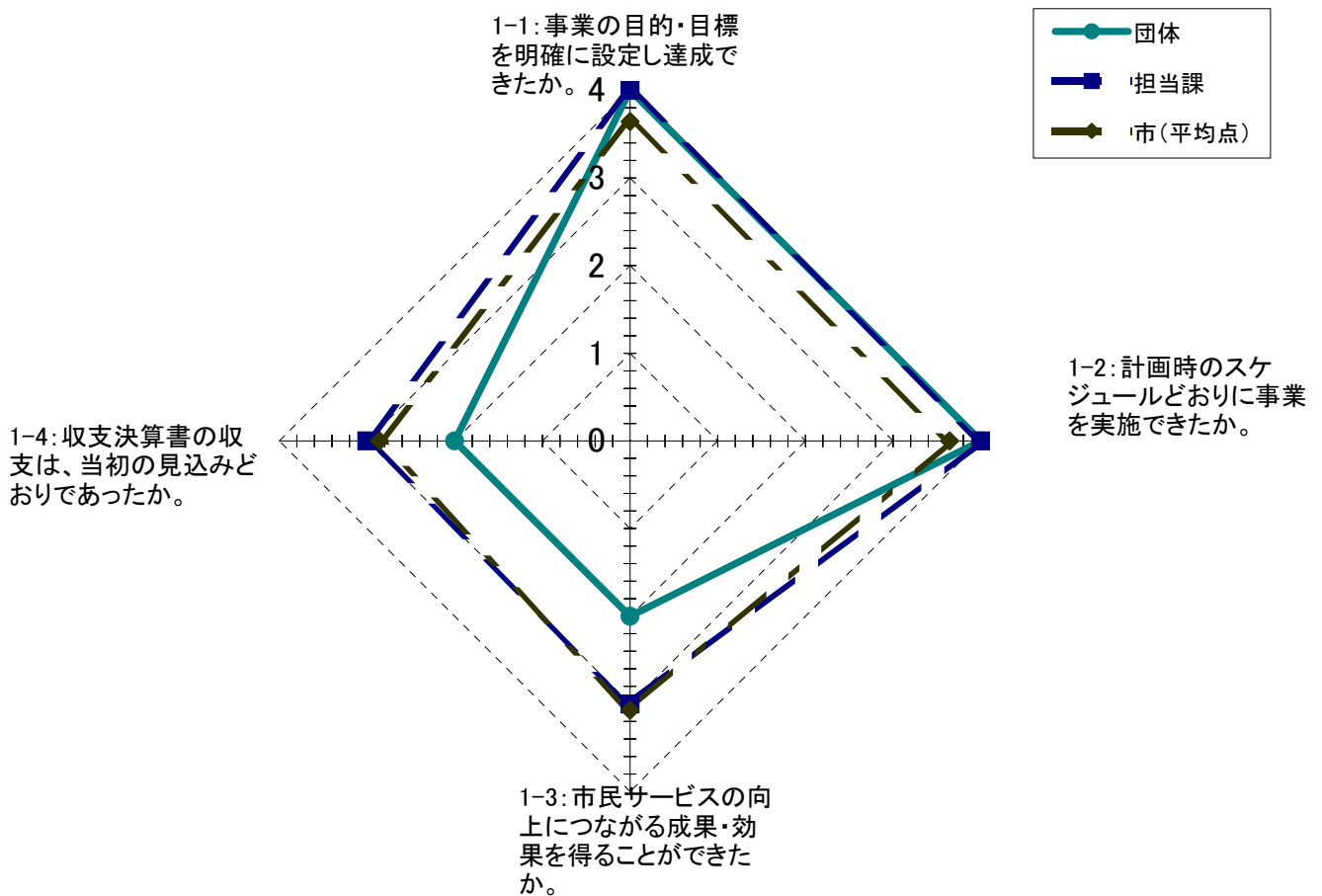
【採点基準】

事業名 緑地(里地里山)保全活動事業
 団体名 (特非)藤沢グリーンスタッフの会
 担当課 公園みどり課

できなかった	0
あまりできなかった	1
ほぼできた	2
できた	3
非常によくできた	4

1、事業結果の振り返り(効果・成果)

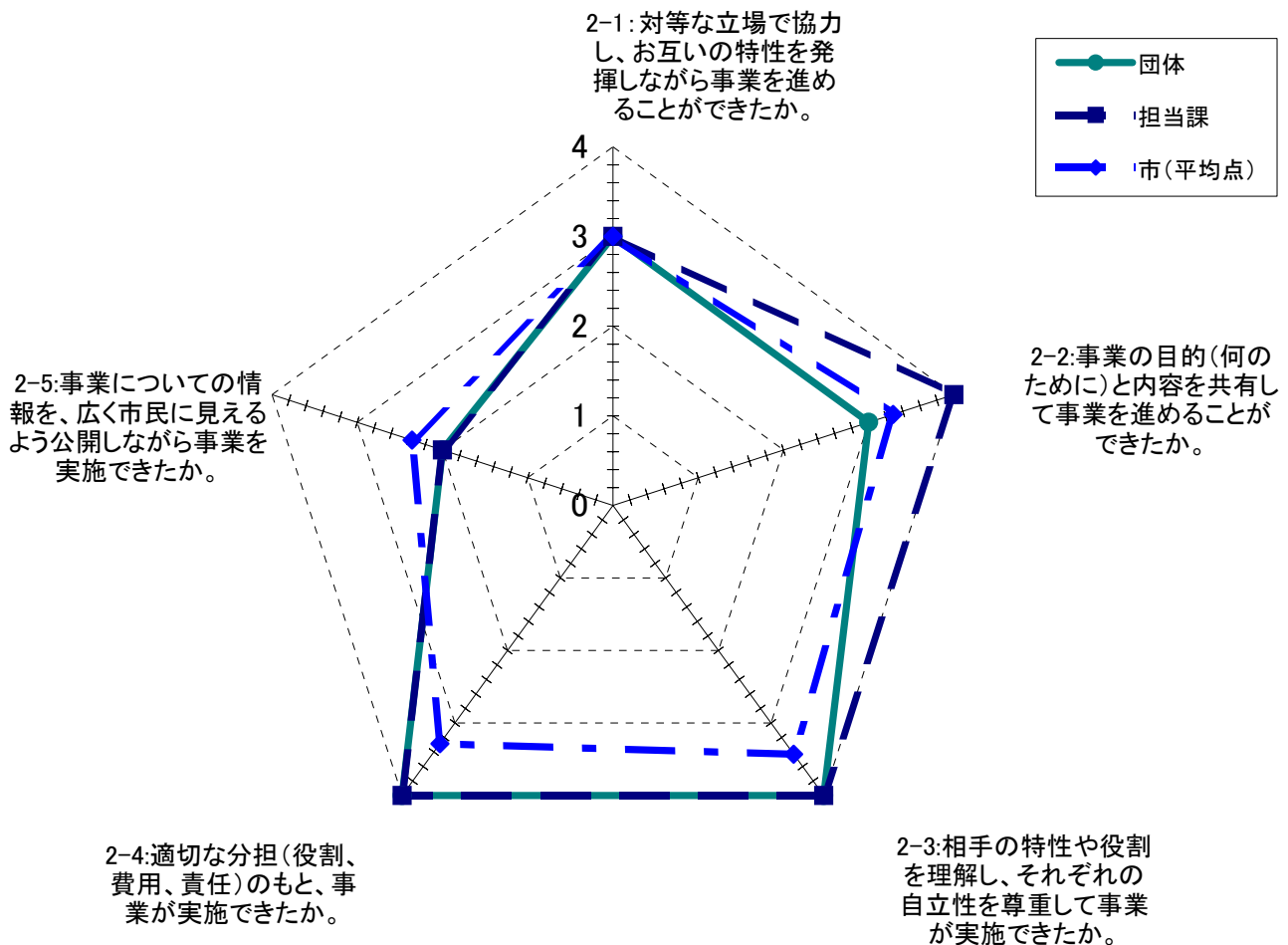
設問	内容	団体	担当課	市(平均点)
1-1	事業の目的を明確に設定できていたか。	4	4	3.64
1-2	計画時のスケジュールどおりに事業を実施できたか。	4	4	3.64
1-3	市民サービスの向上につながる成果・効果を得ることができたか。	2	3	3.07
1-4	収支決算書の収支は、当初の見込みどおりであったか。	2	3	2.86



1 事業結果の振り返り(効果・成果)からは、特徴的な部分として、「1-1 事業の目的・目標を明確に設定し達成できたか。」と「1-2 計画時のスケジュールどおりに事業を実施できたか。」について、団体・担当課とも“非常によくできた”とし、それ以外、特に「1-3 市民サービスの向上につながる成果・効果を得ることができたか。」は、団体は“ほぼできた”、担当課は“できた”と、少し低い点となっています。実施2年目で、保全指定面積(14,600㎡)の100%に手が入り、里山保全ボランティアリーダー養成講座の修了生が17人から21人に増えるなど、着実に成果を上げてきていることから、本事業は確実に、市民サービスの向上に寄与していると考えます。

2、協働の原則からの振り返り

設問	内容	団体	担当課	市(平均点)
2-1	対等な立場で協力し、お互いの特性を發揮しながら事業を進めることができたか。	3	3	3.00
2-2	事業の目的(何のために)と内容を共有して事業を進めることができたか。	3	4	3.29
2-3	相手の特性や役割を理解し、それぞれの自立性を尊重して事業が実施できたか。	4	4	3.43
2-4	適切な分担(役割、費用、責任)のもと、事業が実施できたか。	4	4	3.29
2-5	事業についての情報を、広く市民に見えるよう公開しながら事業を実施できたか。	2	2	2.36



2 協働事業の原則からの振り返りからは、特徴的な部分として、「2-2 事業の目的と内容を共有して事業を進めることができたか。」以外は、団体・担当課は同じ点としています。また、「2-5 事業についての情報を、広く市民に見えるよう公開しながら事業を実施できたか。」以外は、団体・担当課・市とも、高い点としており、事業の充実度がうかがえます。今後は、事業についての情報を、広く市民に見えるよう工夫をしながら、事業を発展させていただきたいと思ひます。

3 講評

担当課との協力体制、役割分担が比較的上手くしている事業であると思ひます。市内10ヶ所の保全という大変だが、養成講座でボランティアリーダーを育てていく前向きさも好感が持てます。また、協働事業の内容を100%達成するばかりでなく、支援事業、啓発事業も行っており、市内の緑化に十分貢献している事業であると思ひます。ただし、これが唯一無二の協働のあり方ではなく、問題は、お互いの関係がこのまま進めていけるかどうかです。この協働事業をきっかけに、市民側がこうした緑地に入っていくことが、一種の権利のような形で認知されていくと良いのではないのでしょうか。

※この講評は、協働事業を実施した団体と担当課及び審査選定を行った市の協働事業推進会議と審査選定にご意見を頂いた市の審議会である藤沢市市民活動推進委員会からの意見について、代表的なものを要約してまとめたものです。

平成20年度実施協働事業の振り返り(気づきの共有から改善へ)

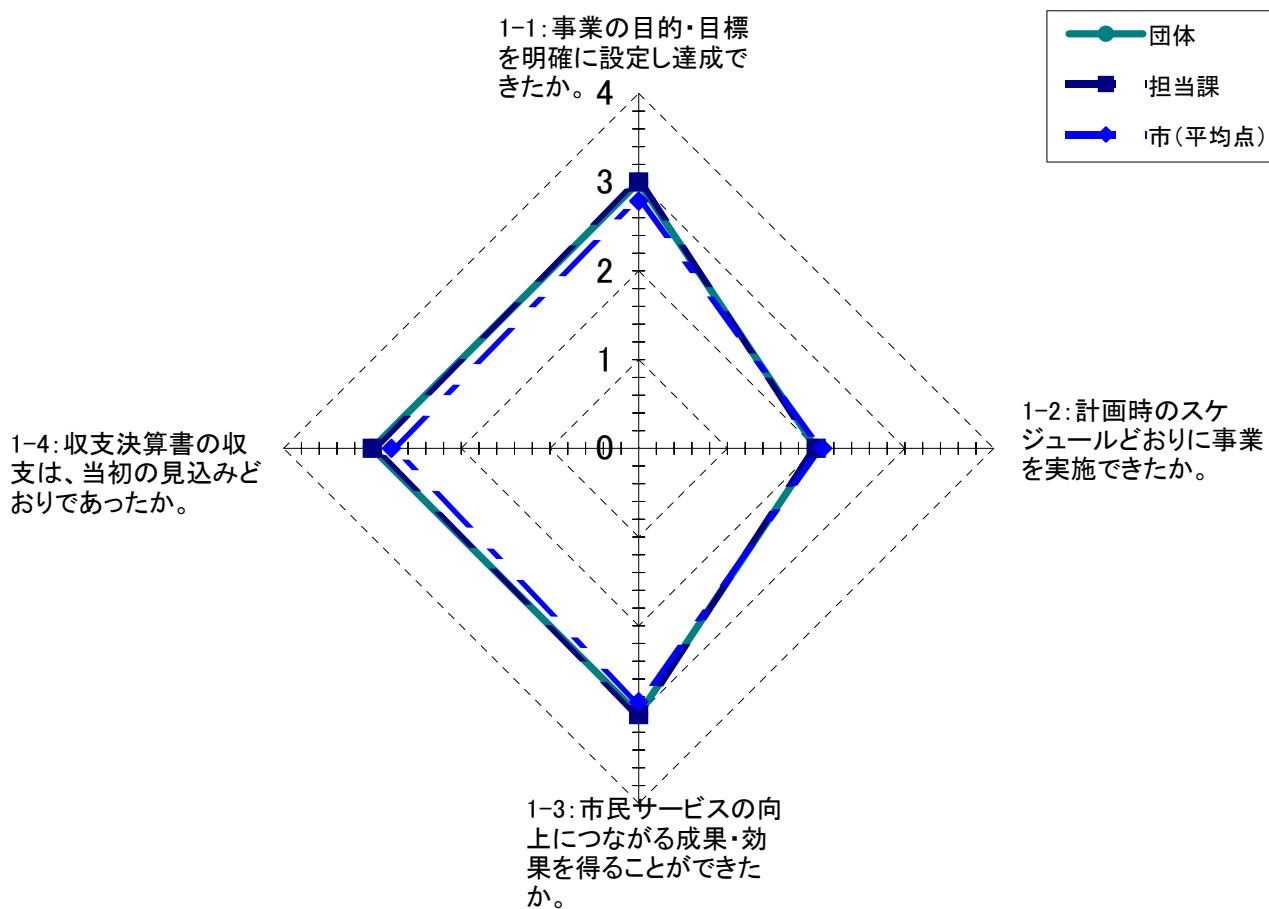
【採点基準】

事業名 子育て情報プラットフォーム運営事業
 団体名 (特非)地域魅力
 担当課 子育て支援課

できなかった	0
あまりできなかった	1
ほぼできた	2
できた	3
非常によくできた	4

1、事業結果の振り返り(効果・成果)

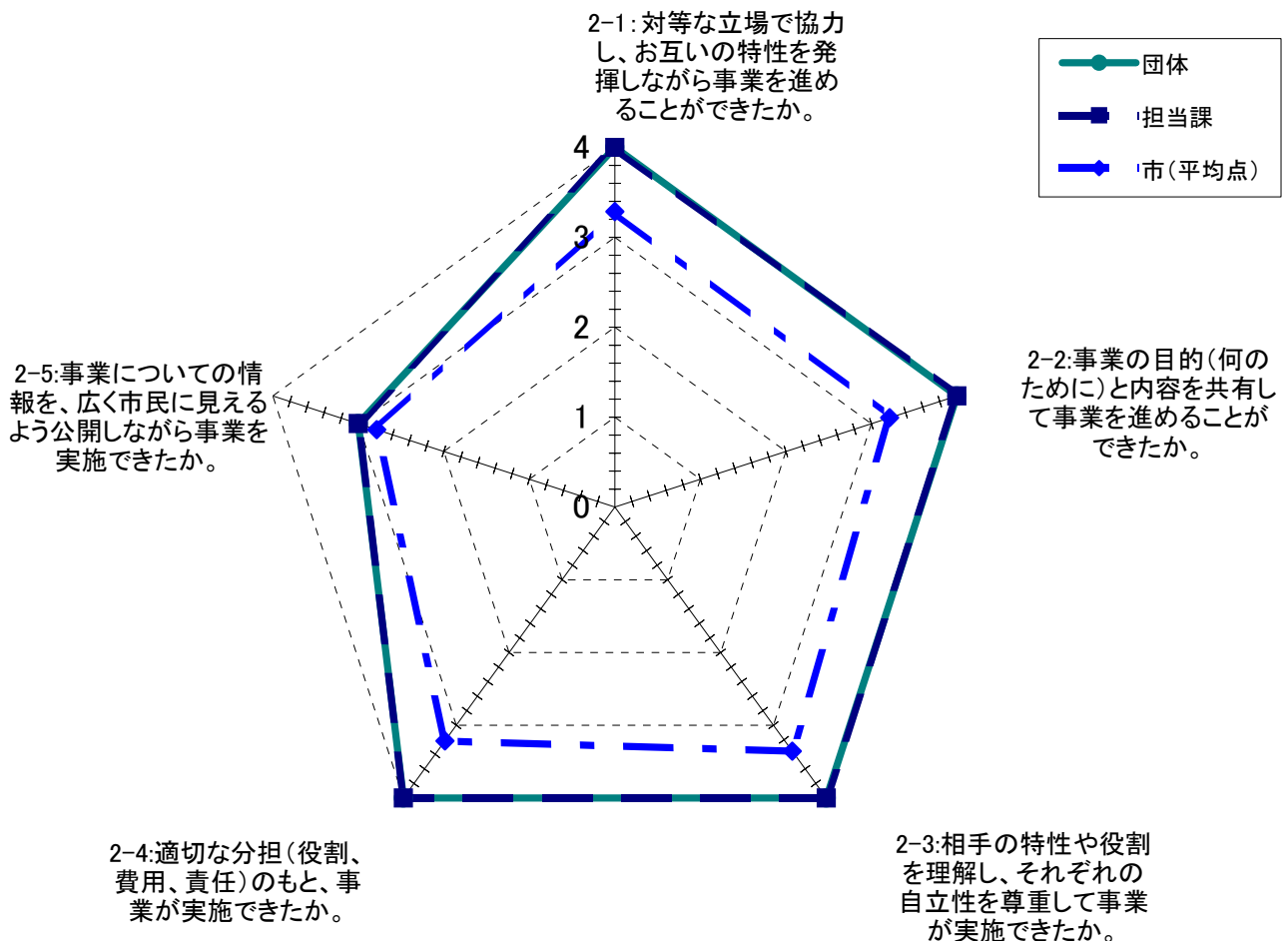
設問	内容	団体	担当課	市(平均点)
1-1	事業の目的を明確に設定できていたか。	3	3	2.79
1-2	計画時のスケジュールどおりに事業を実施できたか。	2	2	2.07
1-3	市民サービスの向上につながる成果・効果を得ることができたか。	3	3	2.86
1-4	収支決算書の収支は、当初の見込みどおりであったか。	3	3	2.79



1 事業結果の振り返り(効果・成果)からは、特徴的な部分として、「1-2 計画時のスケジュールどおりに事業を実施できたか。」について、団体・担当課・市の3者とも”ほぼできた”としていますが、全体としては”できた”という評価で、ほぼ同じ傾向となっています。本事業は、「藤沢市は子育てに特に力を入れているという印象を持った」というコメントが寄せられるなど、充実した子育て情報を提供しています。今後は、計画時のスケジュールに十分留意しながら、事業が展開されることを期待します。

2、協働の原則からの振り返り

設問	内容	団体	担当課	市(平均点)
2-1	対等な立場で協力し、お互いの特性を發揮しながら事業を進めることができたか。	4	4	3.29
2-2	事業の目的(何のために)と内容を共有して事業を進めることができたか。	4	4	3.21
2-3	相手の特性や役割を理解し、それぞれの自立性を尊重して事業が実施できたか。	4	4	3.36
2-4	適切な分担(役割、費用、責任)のもと、事業が実施できたか。	4	4	3.21
2-5	事業についての情報を、広く市民に見えるよう公開しながら事業を実施できたか。	3	3	2.79



2 協働事業の原則からの振り返りからは、特徴的な部分として、「2-5 事業についての情報を、広く市民に見えるよう公開しながら事業を実施できたか。」について以外、団体・担当課ともに“非常によくできた”とし、高い点でほぼ均一となっています。団体と担当課の点が、5項目とも高い点で一致することは素晴らしいことであり、いかに団体と担当課で、情報共有や連携が取れていたかということがうかがえます。今後は、事業についての情報が広く市民に見えるよう、さらに工夫をしながら、事業を発展させていただきたいと思います。

3 講評

市と団体が「子育て」にエネルギーを注いでいるのがよく分かりました。ただ、今の時点では、プラットフォームが大きくなりすぎて、一つ一つが曖昧な印象になっています。子育ての当事者、庁内の関係部署、市内の子育て支援活動団体などの声を整理していく作業が必要ではないかと思えます。また、本事業は、子育てが終わった方、あるいは核家族化が進んでいる中で、高齢者の方のお知恵を拝借する関わりがどこかにあったり、そのような支援ができれば面白いのではないかと思います。

※この講評は、協働事業を実施した団体と担当課及び審査選定を行った市の協働事業推進会議と審査選定にご意見を頂いた市の審議会である藤沢市市民活動推進委員会からの意見について、代表的なものを要約してまとめたものです。

平成20年度実施協働事業の振り返り(気づきの共有から改善へ)

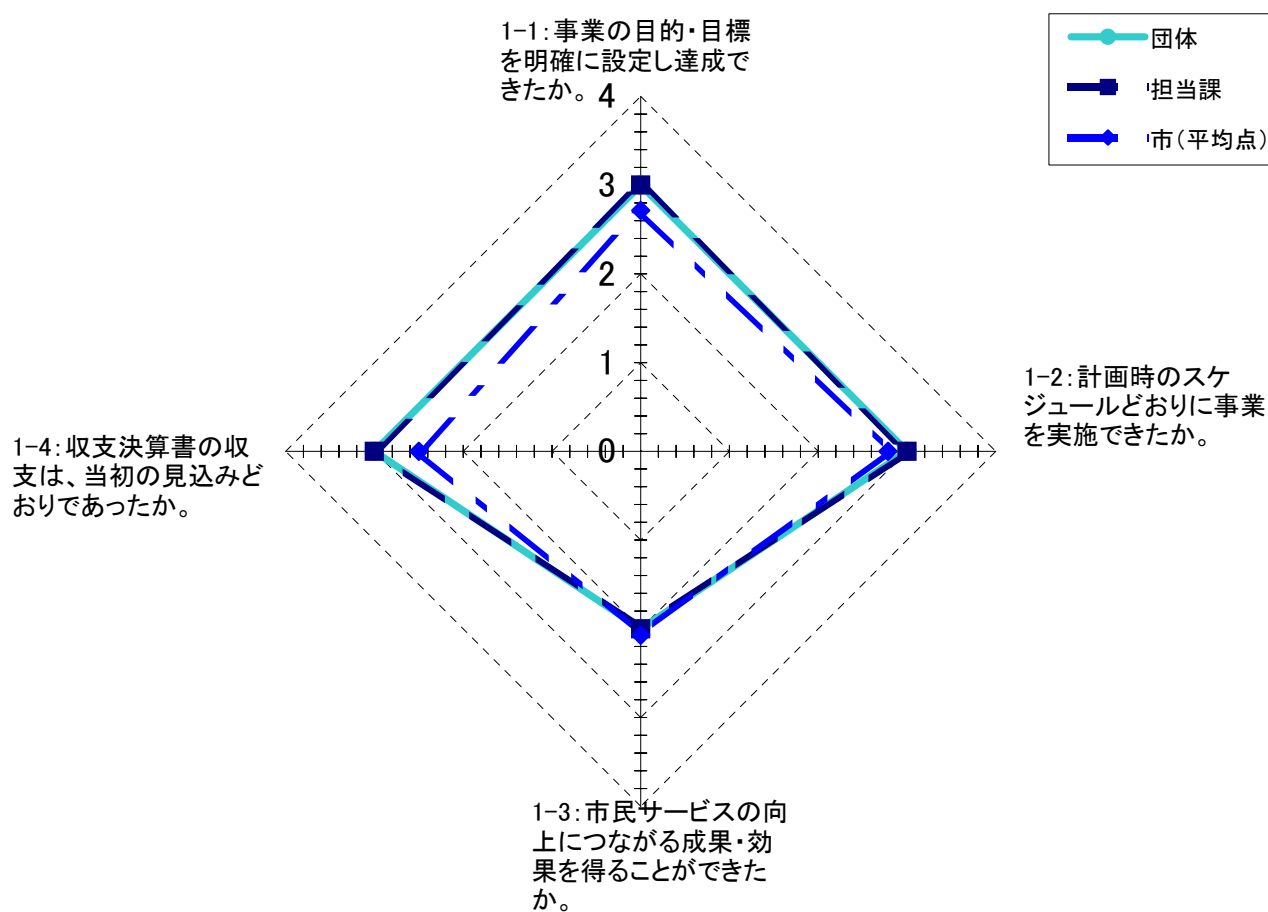
【採点基準】

事業名 文書館収蔵資料デジタル展示推進事業
 団体名 (特非)湘南市民メディアネットワーク
 担当課 文書館

できなかった	0
あまりできなかった	1
ほぼできた	2
できた	3
非常によくできた	4

1、事業結果の振り返り(効果・成果)

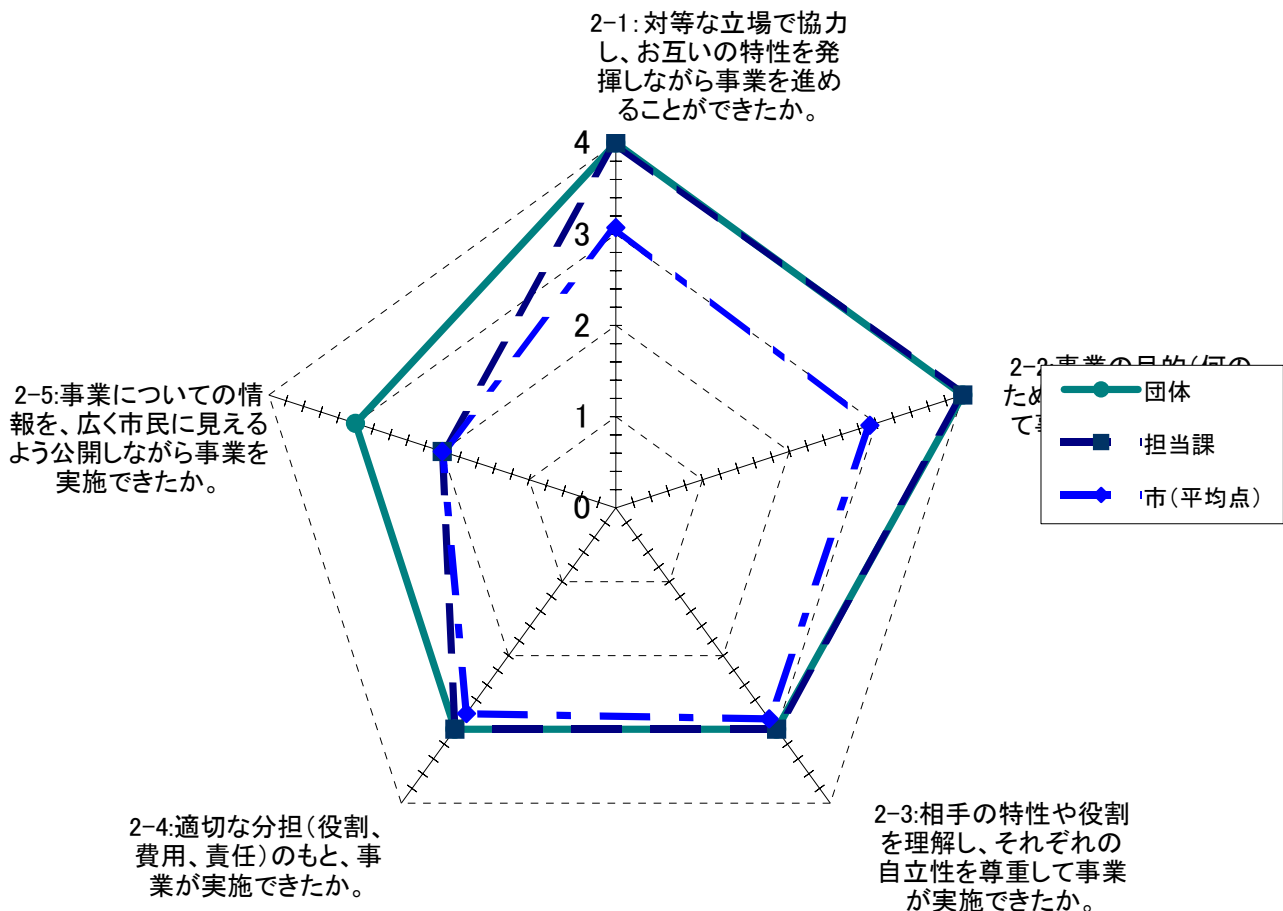
設問	内容	団体	担当課	市(平均点)
1-1	事業の目的を明確に設定できていたか。	3	3	2.71
1-2	計画時のスケジュールどおりに事業を実施できたか。	3	3	2.79
1-3	市民サービスの向上につながる成果・効果を得ることができたか。	2	2	2.07
1-4	収支決算書の収支は、当初の見込みどおりであったか。	3	3	2.50



1 事業結果の振り返り(効果・成果)からは、特徴的な部分として、全体的に団体・担当課・市とも、ほぼ均等で同じような傾向となっています。団体と担当課は全項目に対して同評価をしていることに対し、市は少し低い点となっていますが、ほとんど差異はないものと考えます。今後も、古文書のアーカイブ化を進めるとともに、市民サービスの向上につながる成果・効果を高めるため、市民や教育現場の視点に立ったコンテンツと充実させ、リンク等による広報が展開されることを期待します。

2、協働の原則からの振り返り

設問	内容	団体	担当課	市(平均点)
2-1	対等な立場で協力し、お互いの特性を發揮しながら事業を進めることができたか。	4	4	3.07
2-2	事業の目的(何のために)と内容を共有して事業を進めることができたか。	4	4	2.93
2-3	相手の特性や役割を理解し、それぞれの自立性を尊重して事業が実施できたか。	3	3	2.86
2-4	適切な分担(役割、費用、責任)のもと、事業が実施できたか。	3	3	2.79
2-5	事業についての情報を、広く市民に見えるよう公開しながら事業を実施できたか。	3	2	2.00



2 協働事業の原則からの振り返りからは、特徴的な部分として、「2-5 事業についての情報を、広く市民に見えるよう公開しながら事業を実施できたか。」以外は、団体・担当課ともに同評価となっています。この項目について、担当課・市は2点の“できた”とし、団体は少し高い点としています。歴史に興味がある方だけでなく、一般の方でも楽しめる魅力的なコンテンツを作成し、インターネットを中心に広く市民の方々に提供されることを期待します。

3 講評

発想は素晴らしく、子供たちにもぜひ見せたいWEBです。ただ、3D化や資料のつながりの調整に時間をかけていると、公開が遅れてしまうので、所蔵者の掲載許可等がおりたものから、順次公開をした方が良いと思います。実際のコンテンツについては、80%程度出来上がっており、出来上がっている部分については十分充実しています。今後の方向性についても、魅力的なコンテンツづくりが期待できます。ただ、報告書については、何を報告すべきかということが、きちんと理解されていなかったと思われる。

※この講評は、協働事業を実施した団体と担当課及び審査選定を行った市の協働事業推進会議と審査選定にご意見を頂いた市の審議会である藤沢市市民活動推進委員会からの意見について、代表的なものを要約してまとめたものです。

平成20年度実施協働事業の振り返り(気づきの共有から改善へ)

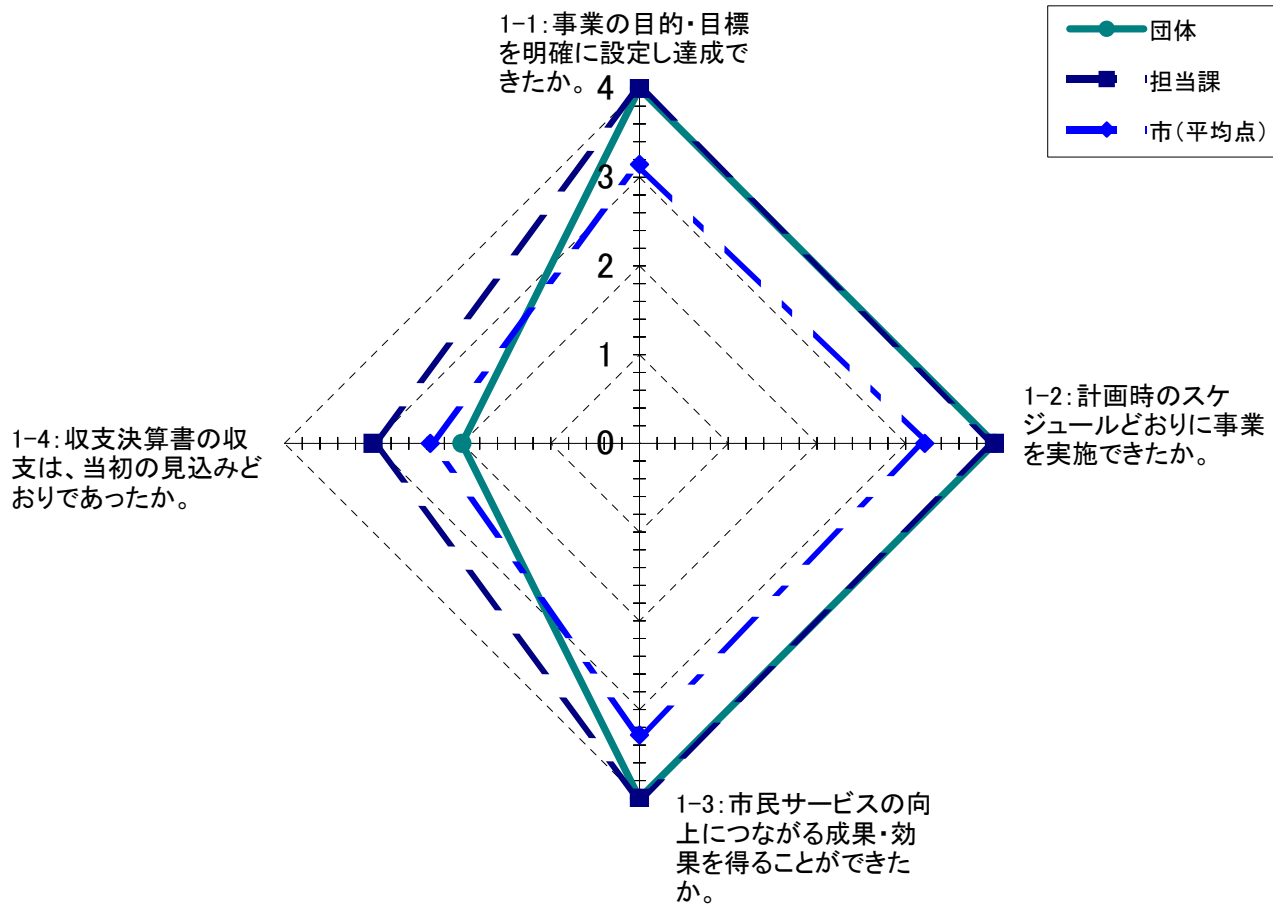
【採点基準】

できなかった	0
あまりできなかった	1
ほぼできた	2
できた	3
非常によくできた	4

事業名 傾聴ボランティア育成・派遣事業
 団体名 (特非)シニアライフセラピー研究所
 担当課 高齢福祉課

1、事業結果の振り返り(効果・成果)

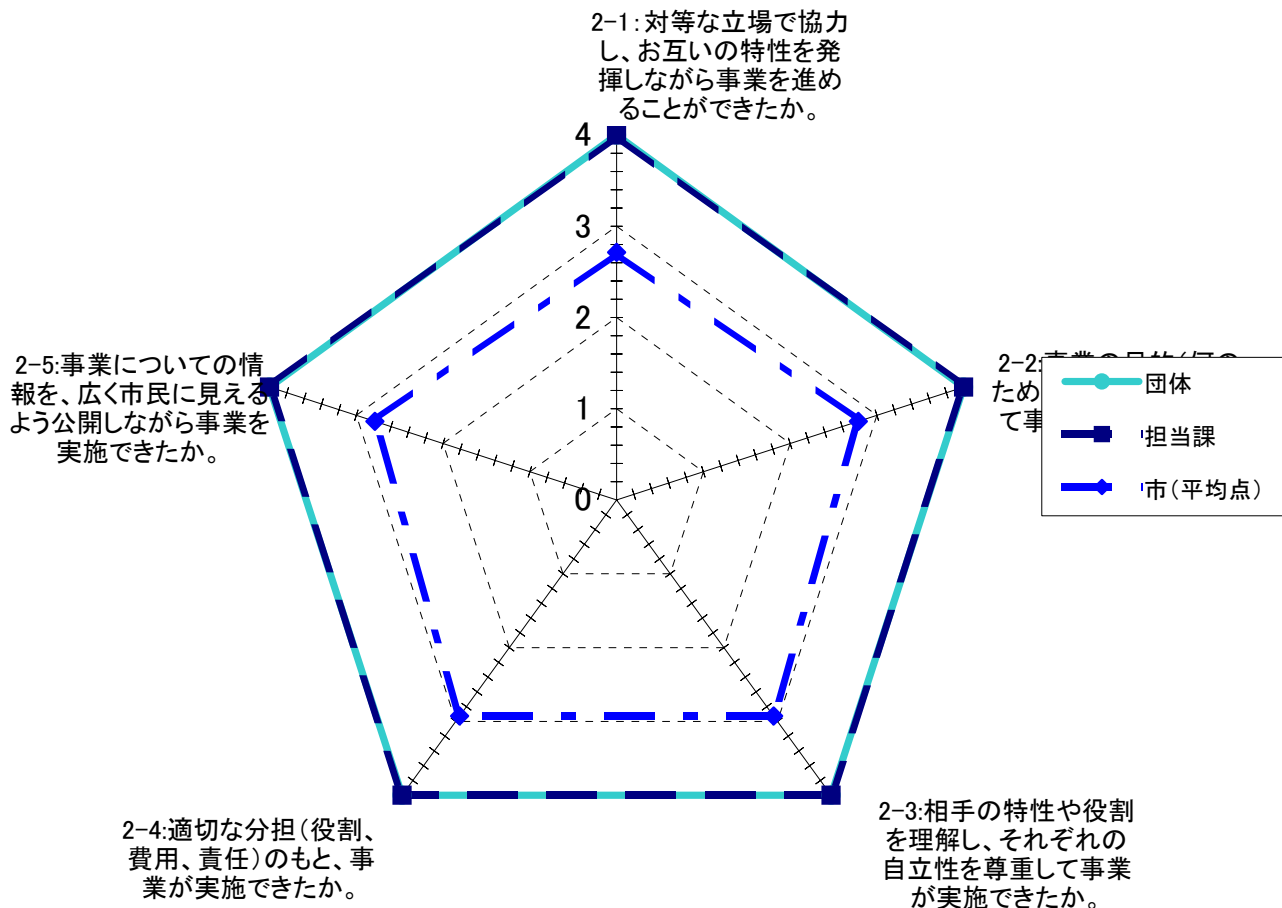
設問	内容	団体	担当課	市(平均点)
1-1	事業の目的を明確に設定できていたか。	4	4	3.14
1-2	計画時のスケジュールどおりに事業を実施できたか。	4	4	3.21
1-3	市民サービスの向上につながる成果・効果を得ることができたか。	4	4	3.29
1-4	収支決算書の収支は、当初の見込みどおりであったか。	2	3	2.36



1 事業結果の振り返り(効果・成果)からは、特徴的な部分として、「1-4 収支決算書の収支は、当初の見込みどおりであったか。」という項目以外は、団体・担当課ともに「非常によくできた」としており、市についても高い点で均一となっています。1-4の項目に関しても、若干のばらつきはあるものの、それほど点差はなく、全体の傾向は同様で、事業の目的がほぼ達成できたと考えられます。団体の評価として、1-4の項目が低いのは、主として当初見込んでいなかった事務局経費を計上したためであり、今後は改善が図られるものと考えます。

2. 協働の原則からの振り返り

設問	内容	団体	担当課	市(平均点)
2-1	対等な立場で協力し、お互いの特性を發揮しながら事業を進めることができたか。	4	4	2.71
2-2	事業の目的(何のために)と内容を共有して事業を進めることができたか。	4	4	2.79
2-3	相手の特性や役割を理解し、それぞれの自立性を尊重して事業が実施できたか。	4	4	2.93
2-4	適切な分担(役割、費用、責任)のもと、事業が実施できたか。	4	4	2.93
2-5	事業についての情報を、広く市民に見えるよう公開しながら事業を実施できたか。	4	4	2.79



2 協働事業の原則からの振り返りからは、特徴的な部分として、全項目について団体・担当課が”非常によくできた”と同評価をしています。市についても少し下回るものの、均等で同じような傾向となっています。団体と担当課の点が、5項目とも最高点で一致するということが特筆すべきことであり、充実した協働事業が実施されたかということがうかがわれます。講座と実習を通して、地域福祉の現場や現状を、受講した市民の方々に理解していただき、事業として大きな成果を出すことができたと考えます。

3 講評

事業の実施状況、問題点の把握等、とても充実した事業が行われていると思います。今後のあり方については、協働事業として実施するのが望ましいのか、あるいは民間事業に対する何らかの補助がある形がよいのか、1年間の活動をする中で、しっかりと話し合っていたいただきたいと思います。

※この講評は、協働事業を実施した団体と担当課及び審査選定を行った市の協働事業推進会議と審査選定にご意見を頂いた市の審議会である藤沢市市民活動推進委員会からの意見について、代表的なものを要約してまとめたものです。